

ローズグラスの越冬性の品種間差異

持留信雄・鶴見義朗・土井 修(鹿児島県農業試験場大隅支場)

MOCHIDOME, N., Y. TSURUMI and O. DOI: Varietal Difference in Overwintering of Rhodesgrass (*Chloris gayana* KUNTII.)

ローズグラスは元来永年生であるが、沖縄県、鹿児島県離島以外では一年生牧草として栽培されている。越冬性、耐寒性に強い品種系統を見出せば、ローズグラスの永年生利用地域を拡大することができる。本試験は主要なローズグラスの品種系統について、鹿児島県農試大隅支場(肝属郡串良町細山田)での越冬性を調査した結果である。

本試験を行うにあたり、試験設計、種子の分譲など御指導、御高配いただいた九州農試草部佐藤博保室長、中川仁枝宮に厚く謝意を表す。

1. 試験方法

1) 供試材料 選抜No. 46(越冬性選抜系統)、パイオニア、栃酪系、ガンソン、フォーズカタンボラ(熊牧系)、カタンボラ(以上2倍体)、マサバ、ボマ、ポコット、エンバ、エルンバ、ムバララ(以上4倍体)

2) 播種期及び播種法 1981年5月8日、100g/a、畦間50cmの条播

3) 1区面積及び区制 6m²(畦長3m×4畦)、分割区法(主区 倍数性、細区 品種系統)、r=3

4) 施肥量(kg/a) 基肥N1.0、P₂O₅2.0、K₂O1.0、苦土石灰10.0、堆肥200 刈取後追肥N3.0、K₂O2.6 春肥N1.0、P₂O₅2.0、K₂O1.0

5) 刈取月日 6月30日、7月24日、8月12日、9月4日、10月6日(1年目)、6月7日(2年目)

2. 試験結果及び考察

大隅支場における1981年～1982年の試験期間中の最低温度は-6.0℃、旬別平均最低温度は1月下旬の0.6であった。ローズグラス品種系統間に明らかな越冬性の差異が認められ、選抜No.46、パイオニア、栃酪系の越冬性が優れ、ついで、ガンソン、フォーズカタンボラであった。カタンボラ及び4倍体品種は越冬しなかった(第1表)。

越冬性と諸形質の関係をみると、倍数性(第3表)、耐霜性、草丈、乾物率(第2表)、出穂始、出穂茎数(第3表)などに高い関連性が見られた。これらの形質は越冬性の選抜のための指標となるであろう。

当支場においては、越冬の優れた品種系統でも冬期に地上部が枯死し、春の萌芽再生が遅く、実用性には永年利用が出来ないが、これらの品種系統は耐霜性にも強いため、軽い降霜地帯では永年栽培が可能と推察される。

第1表 ローズグラス品種系統の越冬性及び越冬後の収量性

品種系統 ¹⁾	越冬性 ²⁾	生草収量 ³⁾	乾物収量 ³⁾	草丈 ³⁾
選抜 No.46	1.7	173kg/a	30.1kg/a	93cm
パイオニア	1.7	149	26.1	70
栃酪系	2.7	170	27.6	90
ガンソン	3.7	113	17.2	63
フォーズカタンボラ	4.0	46	7.1	52
カタンボラ	5.0	0	0	0
4倍体6品種	5.0	0	0	0

注) 1) 4倍体6品種以外は2倍体、2) 1良～5不良(5月25日)、3) 1番草(6月7日)

第2表 ローズグラス品種系統の耐霜性及び収量性(1年目)

品種系統 ¹⁾	耐霜性 ²⁾	生草収量 ³⁾	乾物収量 ³⁾	草丈 ³⁾	乾物率 ³⁾
選抜 No.46	2.0	790 kg/a	144 kg/a	95 cm	18.3%
パイオニア	2.0	697	130	85	18.9
栃酪系	2.0	767	140	91	18.4
ガンソン	2.0	848	147	98	17.4
フォーズカタンボラ	2.7	846	149	100	17.6
カタンボラ	4.0	885	148	104	16.8
4倍体6品種	3.9	922	150	110	16.1

注) 1) 表1の注参照 2) 1良～5劣(11月13日)、3) 1番草～5番草の合計又は平均

第3表 ローズグラス品種系統の各刈取時の出穂茎数(本/m)

品種系統	1年目				2年目
	2番草 (7.24)	3番草 (8.11)	4番草 (9.4)	5番草 (10.6)	1番草 (6.7)
選抜 No.46	穂ばらみ	110	100	90	1
パイオニア	5	140	140	130	3
栃酪系	1	140	140	100	5
ガンソン	0	70	50	100	0
フォーズカタンボラ	0	30	30	120	0
カタンボラ	0	0	0	30	—
4倍体6品種	0	0	0	0	—

注) 1年目1番草(6.30)は全品種系統未出穂